

この会社にきた理由がわかった

100日間

苦重建設 株式会社

企業で活躍する若手社員の紹介

社員採用側と就職活動側、お互いのゴールは「入社」ではなく、「定着」から活躍であることは周知であると思う。せつかく人材のマッチングが行われ入社に至っても、定着までにかかる日数が業界それぞれに存在する。

『定着までの心理と時間の谷』

その多くは100日に現れることが多いと言われている。「谷を越えて来た」9人のインタビューから、それぞれの背中を押したポイントを探ってみたい。



建設

苦重建設株式会社

入社約2年

小笠原 克真さん



定着成功、3つのポイント

- ・会社から仕事の役割を渡していくスピード
- ・先輩たちの適切な関与
- ・新人職員のポジティブさの更なる底上げ

**一度社会人から、大学進学
しなおしての再就職でした。**

高校では自分でも誇れるほどに部活動（吹奏楽）を一生懸命やっていたと思います。元気も体力も自信があり、卒業後就職にあたって、体力を使うも安定している公務員の道を歩み出しました。そんな時でした。地元大学に吹奏楽部が本格的にでき、旧友も進学するという話を聞いてしまいました。

吹奏楽の本場であるアメリカの大学で代表になるにも年齢制限があり、アメリカへの挑戦も含めて自分の時間を賭けてみたくなり退職。地元大学に籍を置き吹奏楽に邁進しました。

悩んだ末の進学は、

今にも大きく生きていると思います。

やがて大学生活にも限りが近づき、悔いなく再就職活動を行いました。条件は3つ「地元」「時間」「賃金」。一生懸命に目の前の仕事を頑張ることには自信がありました。しかし仕事以外の自分にも持てるようになっていたという変化が生まれていました。



**再就職活動は
1社のみで決めました。**

会社説明会・採用面接などを通じて、積極的に自分で考え行動することに応援してくれるのを感じました。また、地域イベントなどを通じた社会貢献活動も印象に残りました。

「社会人と自分の両立」にチャレンジしていける！と感じての就職決定でした。

仕事と自分のバランス。

実際に仕事を始めると毎日が知らないことの連続ですが、持ち前の元気とコミュニケーション力で先輩にくらいにつき面倒を見てもらっています。プライベートでも地方の吹奏楽サークルのコーチなども行いつつ、忙しくしながらも充実させています。

最近、会社や上司の方とは、一つ一つの現場ごとに対話をすごく取ってもらっています。責任の大きさの変化・期待も感じてきていますし、やりがいだと感じています。今後さらに「会社人」として成長していこうと思っています。